河内長野市埋蔵文化財調査報告書Ⅷ

１９９３年3月

河内長野市教育委員会

序　　文

河内長野市は自然と文化財に恵まれた豊かな町です。

この環境は人々をひきつけ、近年は府下で最も人口増加が著しい町となりました。このため、生活環境の整備のため多くの都市型開発が進められました。

この恵まれた環境を求めて人々が移り住んできますと、今度は逆に、受け入れるための整備のために文化財や自然が破壊される危険が増大してきます。

地下に眠る埋蔵文化財は自然と共に真っ先に危機に立たされます。このような状況で、市教育委員会は開発に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施し、把握に努めています。

今後とも市民の皆様の協力により、国民共有の財産である埋蔵文化財の保護に努めたい所存です。

最後になりましたが、調査に協力していただきました地主の方々、施工者の皆様方に記して感謝いたします。

河内長野市教育委員会
教育長　中　尾　謙　二

例　　言

1．本書は平成４年度に河内長野市教育委員会が国庫補助事業として計画、実施した塩谷遺跡ほか市内遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、本市教育委員会社会教育化文化係尾谷雅彦・鳥羽正剛を担当者として、平成４年４月１日から着手し、平成５年３月31日をもって終了した。

3．本書の執筆は尾谷雅彦・鳥羽正剛が行った。

4．発掘調査及び内業整理については下記の方々の参加を得た。（敬称略）
明地奈緒美・中野雅美

5．調査の実施に関しては下記の方々の協力を得た。（敬称略）
山本匡昭・浦野巌・久保八重子・喜多順子・阿部園子・中西和子

目　　次

序文

例言

1．はじめに …… 1

2．調査の状況 …… 1

3．調査の結果 …… 5

小塩遺跡ＯＳＯ92－１

挿図目次

第１図　河内長野市遺跡分布図 …… 3

第２図　調査地位置図（1/5000） …… 5

第３図　遺構配置図（1/80） …… 5

第４図　調査区土層断面図（1/80） …… 6

第５図　土坑１土器出土状況図（1/30） …… 6

第６図　土坑１出土遺物実測図 …… 7

表　目　次

第１表　発掘届出件数月別一覧 …… 1

第２表　民間関係発掘調査一覧 …… 2

第３表　河内長野市遺跡地名表 …… 4

図版目次

図版Ⅰ　遺構　第１調査坑（北から）、第２調査坑（南から）

図版Ⅱ　遺構・遺物　第３調査坑（西から）、土坑１出土遺物

1．はじめに

大阪府の東南端に位置する河内長野市は、旧河内国錦部郡に属し、紀伊・大和・和泉の三国に接していた。この為、古代から交通の要所となったところである。現代の河内長野市は大阪市の通勤圏に位置し、ベットタウンとして年々人口の増加する町である。特にここ数年の人口増加は府下でも屈指の伸び率を示し、住宅の新築・改築件数も増えている。この為、住宅開発とあわせて交通アクセスの整備、住宅環境の整備など、公共投資も盛んである。この結果、地下に眠る埋蔵文化財への影響は避けてとおることのできない問題である。

このような状況下のなかで本市教育委員会は国庫及び府からの補助金を受けて発掘調査を実施した。

本年度の文化財保護法57条の２及び３の発掘届及び発掘通知の件数は１月末現在で総数75件、内発掘届65件、発掘通知10件である。また、今年度は遺跡の新規発見届及び通知は３件提出されている。

2．調査の状況

今年度の発掘届にみられる原因者の状況は、住宅造成地への個人住宅の建築及び改築に伴う届出が目立った。

また、今年度も新規発見の遺跡が３件あり、遺跡数は増加するばかりである。

第１表　発掘届出件数月別一覧

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	総　数
発掘届	8	15	6	7	6	5	4	4	5	5	65
発掘通知	1		2	2			1	2	2		10
発見届								1			1
発見通知	1		1								2

第２表　主な民間開発発掘調査一覧

（１月末現在）

遺跡名	調査期間	申請者	申請面積 (㎡)	用途	区分	備考
小塩遺跡	H４．4/15～4/20	山本匡昭	445.73	個人住宅	国庫	本書掲載
向野遺跡	H４．4/20～4/21	浦野一男	131.04	個人住宅	国庫	遺構・遺物なし
本多瀬戸遺跡	H４．5/20	岩本義之	301.31	個人住宅	国庫	遺構・遺物なし
塩谷遺跡	H４．9/29	南裕之	978.93	共同住宅	国庫	範囲確認調査 遺構・遺物なし
塩谷遺跡	H４．10/29	隅谷一郎	1608.66	共同住宅	原因者	遺構・遺物なし
蟹井瀬戸遺跡	H４．12/16	橋詰良樹	1401.12	個人住宅	国庫	遺構・遺物なし
尾崎遺跡	H５．1/13	エッソ石油㈱	1668.83	ガソリンスタンド	国庫	範囲確認調査 遺構・遺物出土

第１図　河内長野市遺跡分布図

第3表　〈河内長野市遺跡地名表〉

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	鳴尾遺跡	弥生時代・中世	47	尾崎北遺跡	古墳時代後期
2	塩谷遺跡	弥生時代～中世	48	尾崎遺跡	古墳時代～中世
3	小山田1号古墓	奈良時代	49	加賀田神社遺跡	中世
4	小山田2号古墓	奈良時代	50	ジョウノマエ遺跡	中世
5	菱子尻遺跡	縄文時代～中世	51	庚申堂	中世
6	千代田神社遺跡	中世	52	栗山遺跡	中世
7	市町東遺跡	弥生時代・中世	53	寺元遺跡	奈良時代～平安時代
8	寺ケ池遺跡	旧石器時代～縄文時代	54	観心寺	平安時代～
9	住吉元宮遺跡	中世	55	延命寺	
10	西之山町遺跡	中世	56	川上神社遺跡	中世
11	野作遺跡	中世	57	金剛寺	平安時代～
12	西代神社遺跡	中世	58	日の谷城跡	中世
	本多藩陣屋跡	飛鳥・藤原時代・近世	59	汐の山城跡	中世
13	古野町遺跡	中世	60	峰山城跡	中世
14	藩所藩陣屋跡	近世	61	日野観音寺遺跡	
15	向野遺跡	縄文時代～中世	62	仁王山城	中世
16	双子塚古墳伝承地	古墳時代	63	岩立城	中世
17	五の木古墳跡	古墳時代後期	64	タコラ城	中世
18	法師塚古墳伝承地	古墳時代	65	国見城跡	中世
19	長野神社遺跡	中世	66	稲荷山城跡	中世
20	青ケ原神社遺跡	中世	67	旗蔵城跡	中世
21	長池窯跡群	平安時代～近世	68	大江家	中世
22	伝「仲哀廟」		69	石仏城跡	中世
23	上原近世瓦窯	江戸時代	70	左近城跡	中世
24	上原北遺跡		71	清水遺跡	中世
25	上原中遺跡	古墳時代・中世	72	薬師寺	
26	塚穴古墳・上原遺跡	古墳時代後期～中世	73	千早口駅南遺跡	中世
27	大日寺遺跡	中世	74	地蔵寺	近世
28	河合寺城跡	中世	75	旗尾城跡	中世
	末広窯跡	中世	76	葛城第18経塚	近世
29	河合寺	中世～	77	天見駅北方遺跡	中世
30	福田家	近世	78	葛城第17経塚	近世
31	烏帽子形古墳	古墳時代後期	79	薬師堂跡	中世
	烏帽子形城跡	中世～近世	80	流谷八幡神社遺跡	中世
	烏帽子形八幡宮	中世	81	小野塚	
32	喜多町遺跡	縄文時代～中世	82	蟹井淵北遺跡	中世
33	上田町遺跡	古墳時代	83	蟹井淵神社遺跡	中世
34	上田町窯跡	近世	84	蟹井淵南遺跡	中世
35	大師山遺跡	弥生時代後期～	85	清水阿弥陀堂跡	近世
	大師山古墳	古墳時代前期	86	権現城跡	中世
36	大師山南古墳	古墳時代後期	87	滝畑埋墓	近世
37	高向遺跡・高向南遺跡	縄文時代～中世	88	堂村地蔵堂跡	近世
38	高向神社遺跡	中世	89	天神社遺跡	中世
39	惣持寺跡	中世	90	中村阿弥陀堂跡	近世
40	野間里遺跡	奈良時代～平安時代	91	西の村阿弥陀堂跡	近世
41	宮山遺跡	縄文時代～平安時代	92	東の村観音堂跡	近世
42	宮山古墳	古墳時代後期	93	光滝寺	中世～
43	高木遺跡	縄文時代	94	葛城第15経塚	近世
44	三日市遺跡	旧石器時代～近世	95	岩湧寺	中世～
45	小塩遺跡	縄文時代～奈良時代	96	鳩原遺跡	中世
46	加塩遺跡	古墳時代後期	97	西浦遺跡	古墳時代

3．調査の結果

小塩遺跡　ＯＳＯ92－１

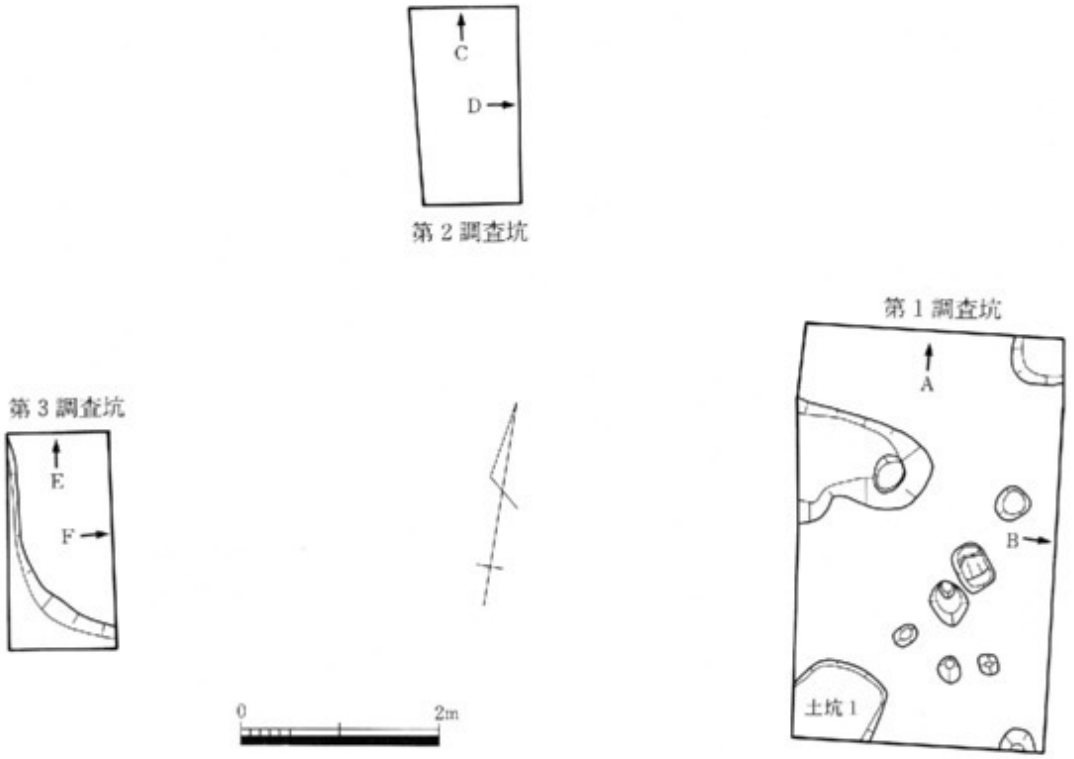
Ａ．位置と環境

当該遺跡は、天見川の河岸段丘上標高約130mに位置する。

既往の調査結果を見ると縄文時代、古墳時代後期、奈良時代、中世の遺構が確認されている。天見川を挟んで旧石器から近世の複合遺跡である三日市遺跡が位置する。また、南側には古墳時代後期の集落跡である加塩遺跡が近接している。

今回の調査区は段丘中央に位置する。調査面積は約15㎡である。

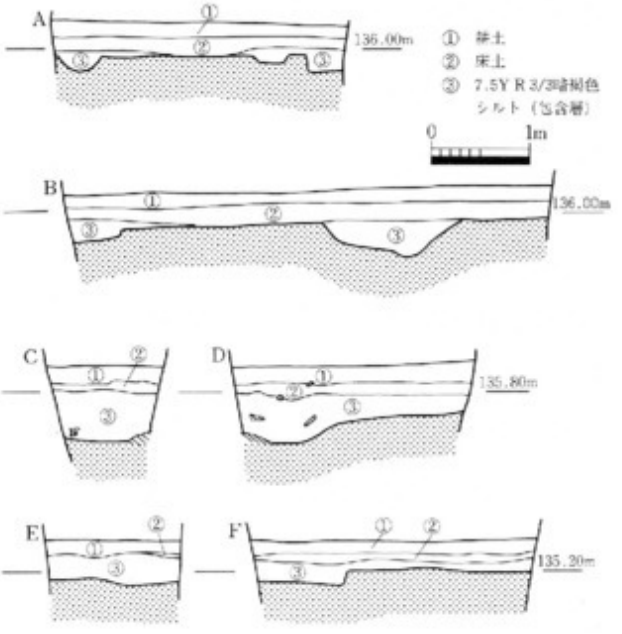
第２図　調査地位置図（1/5000）



第３図　遺構配置図（1/80）

B．結果

調査は３箇所の調査坑を設定して実施した。結果は２箇所の調査坑から遺構と遺物が検出された。



第４図　調査区土層断面図（1/80）

第１調査坑

東西約2.5m×南北約４ｍの範囲で、柱穴状のピット９箇所と土坑状の遺構が２箇所検出された。

遺構面は現地表下0.3～0.4ｍで検出された。層序は３箇所の調査坑とも同様で耕土・床土・暗褐色シルトの包含層と成っている。

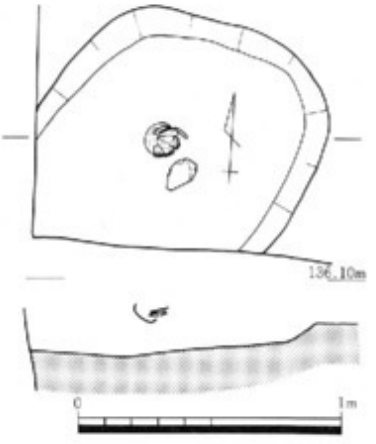
〔ピット〕

９箇所のピットとも最小径0.25mから最大径0.5mで深さは0.5m前後である。埋土からは遺物は確認されていない。

〔土坑１〕

調査坑の南西隅から検出された。平面形は方形を呈する可能性があるが、半分は調査区外に伸びる。検出長１ｍ、幅１ｍ、深さ0.1mを測る。

遺物は土坑中央から須恵器坏身（１）、坏蓋（２）、土師器椀（３）が出土した。



第５図　土坑１土器出土状況図（1/30）

第２調査坑

第１調査坑の北西２ｍに東西１ｍ×南北２ｍの規模で設定した。地山までは深く約0.7mを測った。遺構は検出されず、遺物も実測可能なものは出土しなかった。

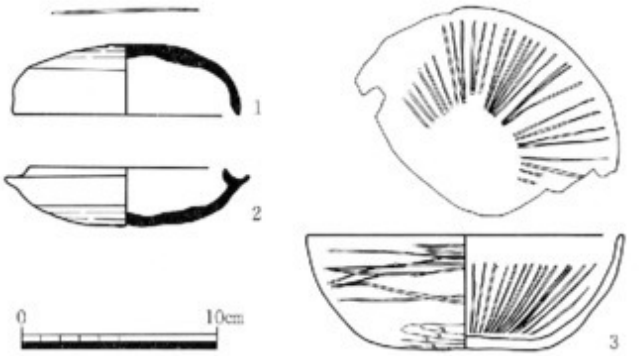
第３調査坑

第２調査坑の南西２ｍに東西１ｍ×南北２ｍの規模で設定した。明確な遺構

は確認されなかったが、調査坑の西側から南側が0.2m程度落ち込み、溝か土坑の可能性がある。

遺物は実測可能なものは出土しなかった。

C．まとめ

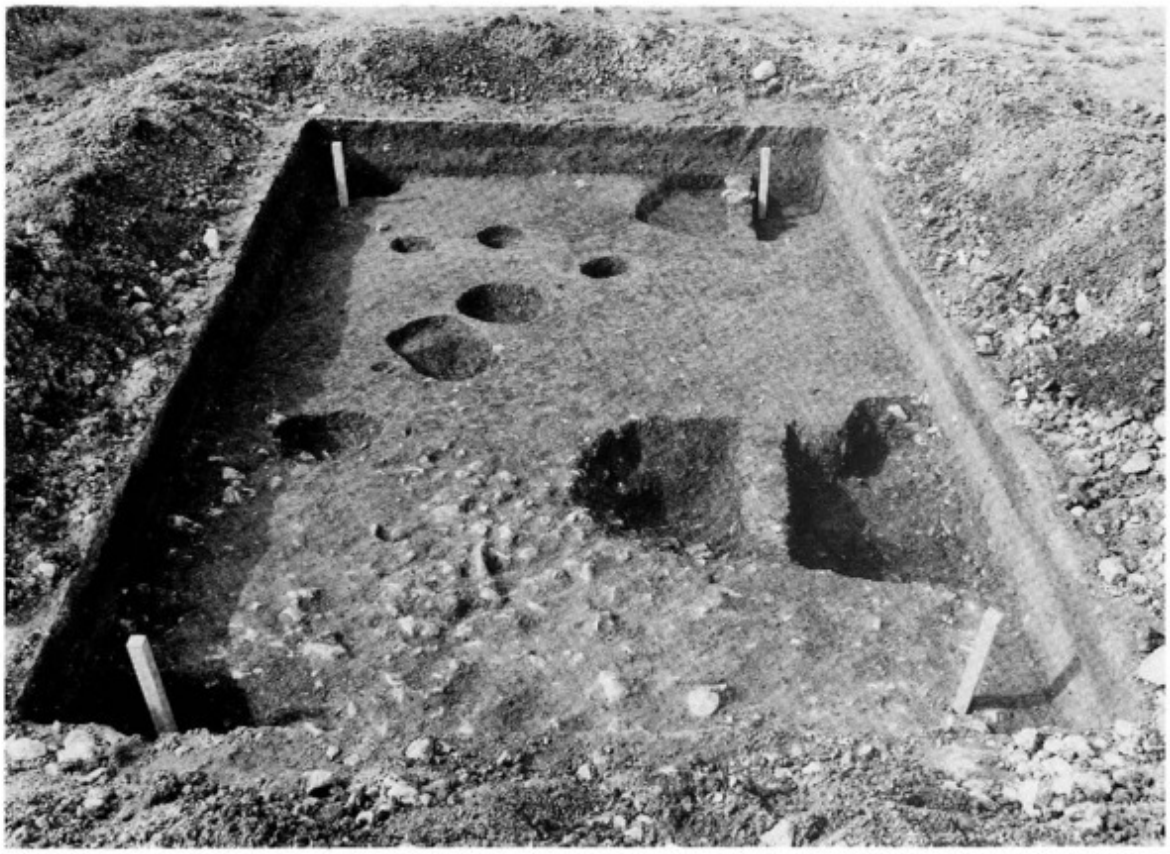


第6図　土坑1出土遺物実測図

上記の結果からは明確な遺構は検出できなかった。これは、やはり調査面積が狭小であることが原因である。

昨年度の小塩遺跡の他の調査区の調査結果からみて、この段丘上には縄文時代、6世紀後半から中世までの遺構が分布するようである。

図　　版



第１調査坑（北から）

第２調査坑（南から）

第３調査坑（西から）

土坑１出土遺物